

---

2026年12月期 第1四半期決算 補足説明資料

---



株式会社テクノフレックス  
証券コード:3449

1. 2026年12月期 第1四半期決算概要 … 2

2. 2026年12月期 業績予想 … 9

(補足資料)テクノフレックスの概要 …12

※ ご注意

本資料に記載された将来の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき作成されたものであり、将来発生する様々な要因により、異なる結果となる可能性を含みます。

---

## 1. 2026年12月期 第1四半期決算概要

---

- 連結営業利益、通期予想比46%の進捗。想定を上回る立ち上がり
  - 連結売上・通期予想 28,000百万円に対し、8,149百万円となり、進捗率は29.1%となりました。
  - 連結営業利益・通期予想 4,000百万円に対し、1,849百万円となり、進捗率は46.2%となりました。
  - 需要環境が好転、収益基盤の強化を認識しました。
  
- 連結営業利益1,849百万円は、2024年1Q 486百万円、2025年1Q 990百万円を超え、2年連続で伸長
  - 2024年1Q比、3.7倍。2025年1Q比、1.8倍になりました。
  - 収益力が飛躍的に向上しました。収益構造が新たなフェーズに入っております。
  
- 予想どおり、防災工事セグメントの半導体工事関連が減少するも、想定以上に、継手セグメントの海外クリーンエネルギー関連が伸長
  - (継手セグメント・営業利益)           2025年1Q 548百万円 ⇒ 2026年1Q 1,487百万円
  - (防災・工事セグメント・営業利益)   2025年1Q 514百万円 ⇒ 2026年1Q 394百万円
  
- 事業ポートフォリオの構造変化
  - 2025年12月期は、半導体の波に左右されやすい構造から、クリーンエネルギーや海外市場の成長を取り込むことで、より強固で分散されたポートフォリオへと進化しました。
  - 海外売上高の比率は、2024年度 12.7%、2025年度 13.5%と推移していたが、2026年1Qは 30.0%と構造変化が鮮明になりました。

## 2026年12月期 第1四半期 連結業績 前年同期比・予想比



### ● 連結業績(前年同期比・予想比)

単位:百万円

	連結業績		前年同期比		業績予想比				
	2025_1Q	2026_1Q	増減額	増減率	期初・修正後	2Q累計(中間期)		通期	
						予想値	進捗率	予想値	進捗率
連結売上高	6,060	8,149	2,088	+34.5%	期初予想	13,500	60.4%	28,000	29.1%
					4/15修正予想	15,000	54.3%		
連結営業利益	990	1,849	859	+86.8%	期初予想	1,700	108.8%	4,000	46.2%
					4/15修正予想	2,900	63.8%		
親会社株主に帰属する 当期/中間/四半期純利益	707	1,204	496	+170.3%	期初予想	1,150	104.7%	2,800	43.0%
					4/15修正予想	2,000	60.2%		

### ● 連結売上高

- 売上高 2,088百万円の増加内訳は、継手セグメント 2,408百万円増加、防災・工事セグメント 378百万円減少等です。
- 継手セグメント 2,408百万円の内訳は、成長マーケットであるクリーンエネルギー関連 1,594百万円、半導体メーカー関連 370百万円の増加等です。
- 防災・工事セグメントは、半導体工事関連が 472百万円減少しました。

### ● 連結営業利益

- 営業利益の増加内訳は、継手セグメント 939百万円増加、防災・工事セグメント 119百万円減少、自動車・ロボットセグメント 26百万円増加。
- 継手セグメントの 939百万円の増加の要因は、営業利益率が、2025年1Q 16.6%から2026年1Q 26.1%になっており、売上要因と利益率要因は、概ね同程度の寄与と試算できます。
- 防災・工事セグメントの営業利益率は、2025年1Q 28.9%から2026年1Q 28.2%になっており、営業利益額の減少は、ほぼ売上減少要因であり、半導体工事関連の減少が要因です。

## 2026年12月期 第1四半期 セグメント業績



単位:百万円

	2024			2025			2026
	(実績)	1Q (実績)	進捗率	(実績)	1Q (実績)	進捗率	1Q (実績)
売上高	22,041	4,980	22.6%	26,025	6,060	23.3%	8,149
継手	13,263	2,856	21.5%	15,125	3,298	21.8%	5,707
防災・工事	5,042	1,211	24.0%	6,799	1,776	26.1%	1,397
自動車・ロボット	1,855	460	24.8%	2,092	491	23.5%	553
介護	1,778	427	24.0%	1,906	468	24.6%	465
その他	101	25	25.0%	101	25	25.0%	25
営業利益	2,196	486	22.2%	3,919	990	25.3%	1,849
継手	2,082	369	17.8%	2,830	548	19.4%	1,487
防災・工事	638	312	49.0%	1,512	514	34.0%	394
自動車・ロボット	△52	△16	30.7%	97	17	18.2%	43
介護	105	22	21.1%	126	28	22.5%	37
その他	35	7	21.9%	42	8	20.9%	11
調整額 ※	△612	△209	34.2%	△690	△127	18.4%	△124

- 継手事業
  - 海外のクリーンエネルギー関連を主要因として、2024年1Qと比較すると、売上は2.0倍、営業利益は4.0倍になりました。
- 防災・工事業業
  - 2025年1Qは、半導体工事が大口案件により、2024年1Q比、急増しましたが、2026年1Qは減少傾向が鮮明になりました。
  - 2025年1Qと比較すると、売上は21.3%減少、営業利益は23.3%減少しました。
- 自動車・ロボット事業
  - 赤字から黒字基調に転換しました。ロボット関連部品、トラック関連部品の売上増加傾向続き、既存先への値上げ等の結果、売上高営業利益率は、(2024年1Q)▲3.5%、(2025年1Q)3.6%、(2026年1Q)7.9%と改善しました。
- 介護事業
  - 売上、ほぼ横ばいでした。収益性、原価抑制効果により、若干、改善しました。

※ 調整額は、2026年12月期 第1四半期決算短信と同様に、セグメント間取引消去および報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

## セグメントと成長マーケット

単位:百万円

	2024			2025			2026
	(実績)	1Q (実績)	進捗率	(実績)	1Q (実績)	進捗率	1Q (実績)
全体売上	22,041	4,980	22.6%	26,025	6,060	23.3%	8,149
継手	13,263	2,856	21.5%	15,125	3,298	21.8%	5,707
クリーン	2,170	284	13.1%	2,737	327	12.0%	1,922
半導体メーカー	1,780	391	22.0%	2,514	696	27.7%	1,067
基盤事業	9,312	2,180	23.4%	9,873	2,274	23.0%	2,718
防災・工事	5,042	1,211	24.0%	6,799	1,776	26.1%	1,397
半導体工事	676	268	39.6%	2,186	766	35.0%	293
基盤事業	4,365	943	21.6%	4,612	1,010	21.9%	1,104
自動車・ロボット	1,855	460	24.8%	2,092	491	23.5%	553
介護	1,778	427	24.0%	1,906	468	24.6%	465
その他	101	25	25.0%	101	25	25.0%	25

- 当グループの成長マーケットは、半導体、ロボット、クリーン(原子力、水素)、水道、スプリンクラー等がありますが、最近、顕著な動きのある、クリーン、半導体工事、半導体メーカーの状況の分析が上記の表となります。
- マーケットとセグメント、その付加価値については、次頁、「成長マーケットの商流」をご参照ください。
- 2025年1Qと、2026年1Qの比較すると、
  - 継手事業の売上は、3,298百万円から5,707百万円に、2,408百万円増加しておりますが、内、クリーン 1,594百万円、半導体メーカー 370百万円増加しており、2つの成長マーケットが増加額全体の 81.6%を占めております。
  - 防災・工事業業の売上は、1,776百万円から 1,397百万円へと378百万円減少しておりますが、成長マーケットである半導体工事が、472百万円減少したものを基盤事業により 93百万円増加し、カバーしております。

※ 成長マーケットの「ロボット市場」(17ページ)、「水道市場」(20ページ)等につきましては、今のところ上記表の「基盤事業」に含めております。

## 成長マーケットの商流



マーケット				販売先・設置先	販売・施工等	主要顧客	セグメント
クリーン	水素	国内	日本	水素運搬船	液化水素用配管	液化水素運搬船の造船会社	継手
				水素貯蔵プラント		液化水素の貯蔵タンクメーカー等	
				水素ステーション	水素用配管	石油元売会社	
				火力発電所	混焼燃料用配管	電力会社	
				製鉄所		製鉄会社	
	海外	米国・インド・韓国	メーカー→データセンター	燃料電池・水電解装置部材	米国系燃料電池・水電解装置のメーカー		
原子力	国内	日本	原子力発電所	原子力発電所の配管	プラントメーカー・サブコン等		
半導体工事	国内	日本	半導体工場	工場建物の消火用配管	ゼネコン・サブコン等の工事会社	防災・工事	
				半導体製造用の真空系配管	真空系配管の工事会社		
半導体メーカー	国内	日本	メーカー→半導体工場	半導体製造装置部材	半導体製造装置メーカー	継手	
				真空ポンプ部材	真空ポンプメーカー		
	海外	マレーシア・シンガポール	メーカー→半導体工場	半導体検査装置部材	米国系半導体検査装置メーカー		
				中国	メーカー→半導体工場		半導体製造装置部材
				日系成膜装置メーカー			

- 2025年1Q比、2026年1Qの売上は、
  - クリーンは、327百万円から 1,922百万円と 1,594百万円増加しました。内、海外が 1,585百万円増加しました。
  - 半導体工事は、766百万円から 293百万円と 472百万円減少しました。
  - 半導体メーカーは、696百万円から 1,067百万円と 370百万円増加しました。内、海外が247百万円増加しました。

※ 今のところ上記表には「クリーンエネルギー市場」と「半導体市場」を記載しておりますが、上記の他にも成長マーケットとして「ロボット市場」(17ページ)、「水道市場」(20ページ)等がございます。

## 国別 売上推移

単位:百万円

	2024			2025			2026
	(実績)	1Q (実績)	進捗率	(実績)	1Q (実績)	進捗率	1Q (実績)
全体売上	22,041	4,980	22.6%	26,025	6,060	23.3%	8,149
日本	19,239	4,512	23.5%	22,501	5,520	24.5%	5,704
クリーン	250	20	8.1%	401	15	4.0%	25
半導体工事	676	268	39.6%	2,186	766	35.0%	293
半導体メーカー	1,193	250	21.0%	1,628	517	31.8%	639
基盤事業	17,118	3,972	23.2%	18,285	4,220	23.1%	4,746
アメリカ	1,650	249	15.1%	1,980	295	14.9%	1,333
クリーン	1,642	248	15.1%	1,976	295	14.9%	1,309
半導体メーカー	7	0	12.8%	4	0	12.0%	23
中国	584	156	26.7%	719	166	23.1%	552
クリーン	0	0	0.0%	56	0	0.0%	305
半導体メーカー	318	98	30.9%	387	124	32.0%	134
基盤事業	265	57	21.7%	275	41	15.2%	113
インド	195	0	0.0%	216	4	2.1%	102
クリーン	195	0	0.0%	216	4	2.1%	102
その他	372	62	16.9%	606	73	12.1%	455
クリーン	82	15	18.6%	86	11	13.5%	178
半導体メーカー	261	41	15.8%	493	54	11.1%	269
その他	28	6	21.9%	25	7	27.8%	7

- 2025年1Qの売上 6,060百万円から2026年1Qの売上 8,149百万円へと 2,088百万円増加しました。
- 日本は、5,520百万円から 5,704百万円と 184百万円の増加であり、海外が 1,904百万円と 91.1%が海外での売上増加となりました。
- 国別では、アメリカが 1,037百万円増加であり、国内外全体の増加額に対し、49.7%となり、中国は 386百万円増加で 18.5%、インドが 98百万円で 4.7%となりました。

※ 成長マーケットの「ロボット市場」(17ページ)、「水道市場」(20ページ)等につきましては、今のところ上記表の「基盤事業」に含めております。

---

## 2. 2026年12月期 業績予想

---

## 2026年12月期 連結業績予想 SUMMARY



### ● 連結業績予想

単位：百万円

	2Q累計(中間期)				通期			
	2025年 業績	2026年 4/15修正予想	前年同期比		2025 業績	2026年 予想	前期比	
連結売上高	12,565	15,000	2,434	19.4%	26,025	28,000	+1,974	+7.6%
連結営業利益	1,919	2,900	980	51.1%	3,919	4,000	+80	+2.1%
親会社株主に帰属する 中間／当期純利益	1,326	2,000	673	50.8%	3,123	2,800	▲323	-10.3%

### ● 第1四半期が好調にもかかわらず、通期予想を据え置く理由

- 当グループの事業は、海外向け比率が高まりつつあり、とりわけ中東情勢等、地政学リスクの高まりから、サプライチェーン含め、部材、製造に必要な物資の欠乏により、需要はあるものの、生産活動の停止、出荷の遅れ、物流の停滞等の可能性を想定しております。
- 現時点では、これらの不確定要素を楽観的に織り込むことは適切ではないと判断し、通期予想は据え置いております。ただし、今後、情勢が明確になった段階では、その都度、業績予想に反映させてまいります。

### ● 工事の進捗と今後の予定

- 2026年4月3日 地鎮祭
- 2026年4月6日 着工
- 2026年9月末 竣工予定
- 2026年11月頃 稼働予定。

### ● 建設の背景と目的

- 既存工場の拡張: 第1工場の事業規模が計画当初の想定を上回るペースで拡大しているため、生産能力を増強。
- 重点分野への対応: 千歳市の先端半導体工場向けガス配管の加工能力等の強化を主な目的とする。
- 将来への備え: 北海道で進んでいる、データセンター集積やクリーンエネルギー事業への役割遂行も視野に。

### ● 第2工場の概要

- 所在地 : 北海道苫小牧市(第1工場と同一敷地内)
- 構造 / 面積 : 鉄骨造2階建 / 延床面積 約1,000㎡
- 建設費 : 約3億円(自己資金による充当)
- 用途 : 工場(半導体製造用ガス配管の加工等)

### ● 今後の事業展開

- 第1工場 : 子会社ニトックス㈱が、消火用配管の加工に使用。北海道での需要に対応し、事業拡大を図る。
- 第2工場 : 子会社㈱TFエンジニアリングが、千歳市の半導体工場向けを中心に、半導体製造用ガス配管等の加工能力を増強。将来的には、道内のクリーンエネルギー関連の配管(水素用等)の加工への対応を想定。

### ※ ご参考

- 2025年10月14日付適時開示「北海道第2工場(仮称)の建設に関するお知らせ」  
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3449/tdnet/2696962/00.pdf>
- 2026年3月9日付適時開示「北海道第2工場(仮称)の建設に係る工事契約締結のお知らせ」  
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3449/tdnet/2773776/00.pdf>

---

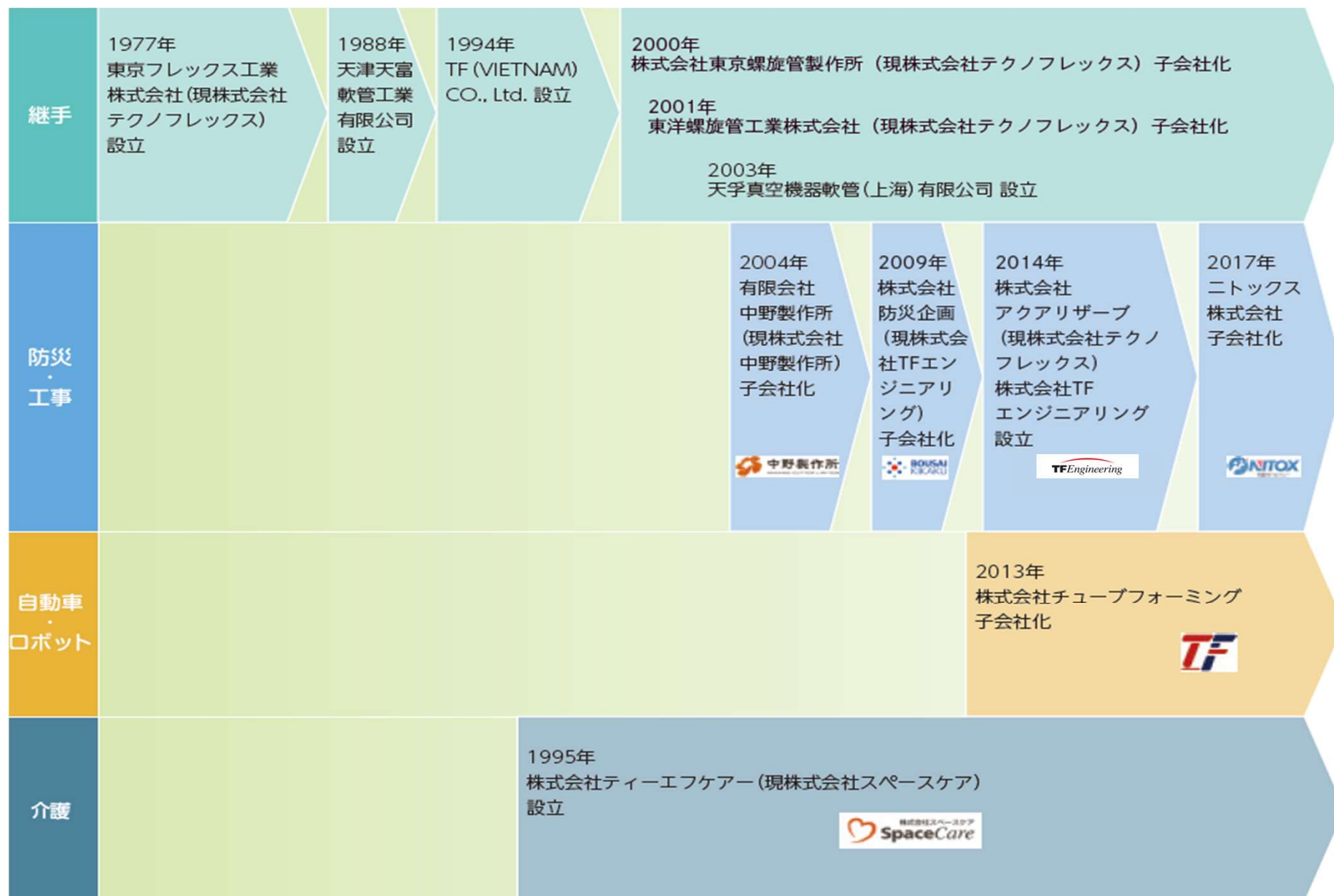
## (補足資料) テクノフレックスの概要

---

沿革 … 13

マーケット関連 … 14 ~ 21

海外拠点 … 22



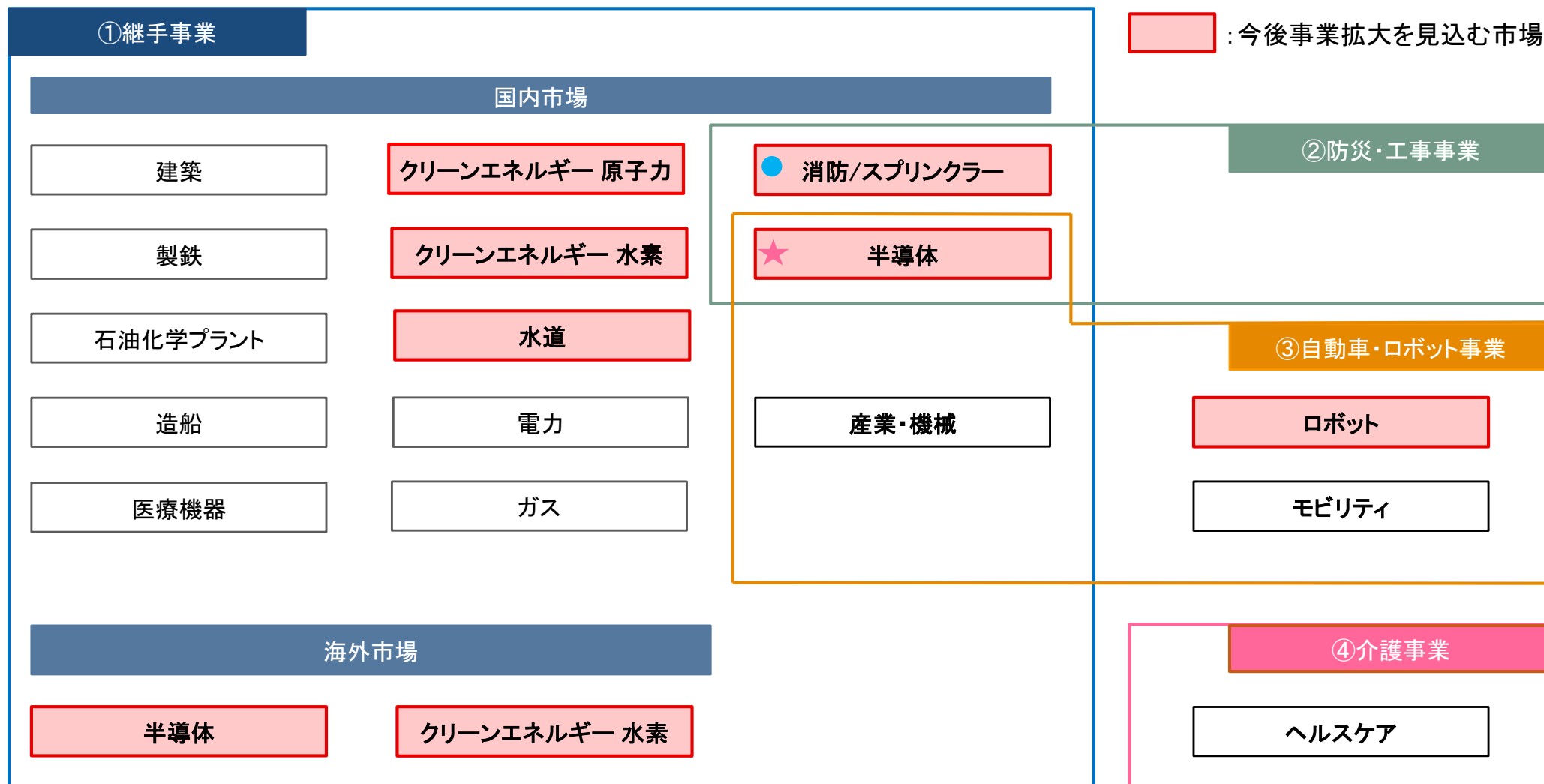
- 当グループを取り巻く環境に大きなインパクトを与えるキーワードを4つピックアップ。

重要キーワード	市場にもたらす変化	該当セグメント
1 AIと自動化	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 半導体市場の拡大</li><li>✓ ロボット市場の拡大</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 継手事業</li><li>✓ 防災・工事事業</li><li>✓ 自動車・ロボット事業</li></ul>
2 クリーンエネルギー	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 原子力発電所再稼働</li><li>✓ 水素サプライチェーン構築</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 継手事業</li></ul>
3 社会インフラ老朽化対応	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 水道整備関連の取替需要増加</li><li>✓ 建物の高層化・老朽化に伴う防災工事重要増加</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 継手事業</li><li>✓ 防災・工事事業</li></ul>
4 ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 地域包括ケアシステム推進</li><li>✓ 在宅介護の拡大</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 介護事業</li></ul>

## マーケットと4つの事業セグメント



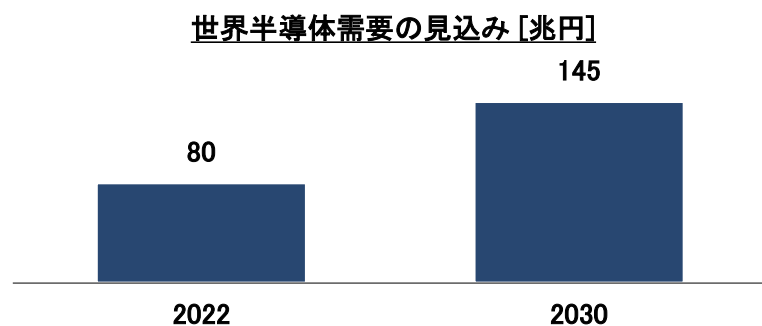
- 当グループがターゲットとするマーケットは多岐にわたり、特に事業拡大を見込む市場としては、半導体市場、クリーンエネルギー(原子力)市場、クリーンエネルギー(水素)市場、水道市場、スプリンクラー市場などが挙げられます。



- AI・データセンター向けを中心とした半導体需要の拡大に伴い、先端半導体製造プロセス向けを中心とした設備投資需要が見込まれます。

## 半導体市場の動向

- AI・データセンター需要により世界半導体市場は成長、2030年には145兆円に達する見込み



その他想定される用途先の動向として、

- AI需要増に伴う先端半導体の需要増加
  - ✓ 技術革新に対応するため、微細な加工を必要とする、先端半導体の需要が増加している。
- NANDフラッシュメモリ製造プロセスの高度化
  - ✓ AI向けにも必要なNANDフラッシュメモリの微細化に伴い高温化が進み、極低温による温度管理の必要性が高まっている。

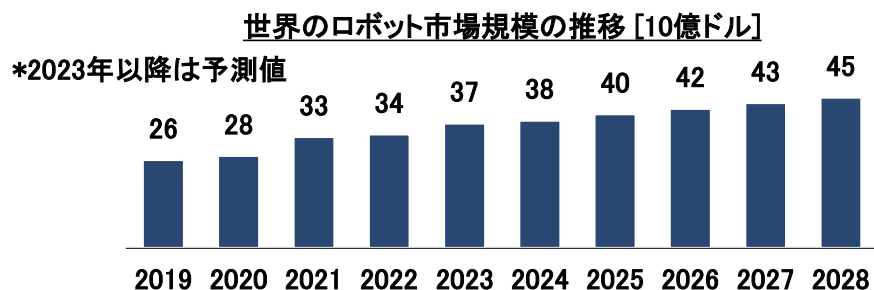
## 市場ニーズ・当社の強み

- 当社のポジショニング・強み
  - 歴史に裏付けられた専門性
    - ✓ 1990年代に国内半導体工場で採用。国産メーカーに普及。30年以上にわたって国内主要工場で採用され続けており、国内随一の半導体真空配管。
  - 技術能力(高純度・耐食・クリーン・現地工事力)
    - ✓ 装置メーカー対応の品質管理体制、高耐食性加工技術、クリーンルーム・防災領域の現場施工力という、「技術×現地工事」の組み合わせを競争力としている。
    - ✓ 低温ライン製品という市場拡大領域にポジショニング。
- 市場ニーズに対する当社対応力
  - 今後、さらに求められる高純度・耐食性に対し、クリーンルーム環境対応、高耐食材による製品化にて対応。
- 具体的な動き
  - 既存領域の深耕として、主要半導体工場への継続的な対応。
  - 当社の強みである低温ライン製品という成長領域への重点的なリソース配分を行い、新たな商材の投入も予定。

- 技術革新に伴う全世界的なファクトリーオートメーション化に伴い、各種ロボット製品の需要が見込まれます。

## ロボット市場の動向

- 技術革新に伴い、世界のロボット市場は拡大
  - 世界中の有望なテック企業に投資する巨大グループがロボット事業の買収を決定しており、国内ロボット市場への更なるAI介入が進む。



その他想定される用途先の動向として、

- 高荷重搬送を想定した、大型搬送用ロボットの需要が増加
  - 物流業界の人手不足を背景に、高度荷重搬送に対応可能な搬送用ロボットの需要増加が見込まれる。
- 産業用ロボットの外装パーツの需要が増加
  - ロボット市場拡大に合わせて、産業用ロボットの外装パーツ需要増加が見込まれる。
- 人手不足に対応する自動搬送ラインの需要が増加
  - 近年の物流業界での人手不足を背景に、自動搬送による物流業務の効率化を求める動きが進む。

(当社推定)

## 市場ニーズ・当社の強み

- 当社(チューブフォーミング)の強み・ポジショニング
  - ・ 金属塑性加工メーカーのトップブランド。
  - ・ 産業ロボット用ドライブシャフトを国内主要ロボットメーカーに納入、販売チャネルを確立している。
  - ・ 高精度なメカニカルフィッティング技術を持ち競争優位性あり。
  - ・ 複合した加工技術を持つ競合企業は少ない。
- 市場ニーズに対する当社の対応力
  - ・ ロボット市場から求められる軽量化ニーズに対し、金属部材の厚肉からパイプにすることにより、ロボットメーカーのニーズに応え、部材供給している。
  - ・ AIの高度化により、ロボットの動作精度要求高まり、構造部材の軽量・高剛性・高精度化が不可欠なこの部分は当社技術が評価されている領域。
- 具体的な動き
  - ・ 既存ロボットメーカーが、AIロボティクス、フィジカルAIのトレンドの中、ロボット需要が拡大し、部材の出荷が増加することを予想。
  - ・ 従来、大型産業用ロボット部材が中心であったが、今後、中小型産業用ロボットの部材も拡大していくと予想。

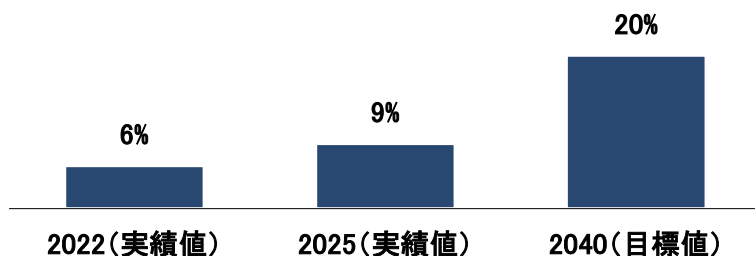
- 原子力発電所再稼働に向けた動きが国内において活発化する中で、再稼働のための特別需要やSMR等の新型炉需要が見込まれます。

## 原子力市場の動向

### <再稼働・革新炉開発で脱炭素社会実現を目指す>

- 原子力発電所再稼働に向けた動きが活発化
  - 国内では、2040年までに原子力比率を20%に近付けることを目標にした第7次エネルギー基本計画を土台として、原子力発電所の再稼働に向けた動きが活発化している。
  - 2025年12月足元では、柏崎刈羽原子力発電所6号機(新潟県)や泊原子力発電所(北海道)再稼働のための対応が進行している。

原子力発電の電源構成比実績・目標 [%]



原発再稼働に向けた政府の他の動向として、

- 「GX実現に向けた基本方針」を基にして、次世代革新炉の開発及び安全性向上に注力。
  - SMR(小型モジュール炉)や革新軽水炉などの新型炉の開発を推進している。

## 市場ニーズ・当社の強み

### ● 当社の強み・ポジショニング

- 日本の原子力創成期から60年以上供給
- 基準厳格化で他社撤退する中、継続供給する数少ないサプライヤーであり、設計審査・長期運用の知見が蓄積している。
- 原子炉向け継手市場での高い実績があり、安全系設備に採用される品質管理体制を保有。参入障壁の高い原子力部材市場の中で、実績に裏付けされたポジションを持つ。

### ● 市場ニーズ

- 再稼働ニーズの顕在化により、安全対策の追加工事、特別需要あり。
- 新型炉(SMR・革新軽水炉)の開発・実装。研究炉 → パイロット → 商用炉とステップが長く、継続的需要あり。
- 既存炉の長寿命化対応・経年劣化対策は、今後20~30年にわたり継続的需要あり。

### ● 具体的な動き

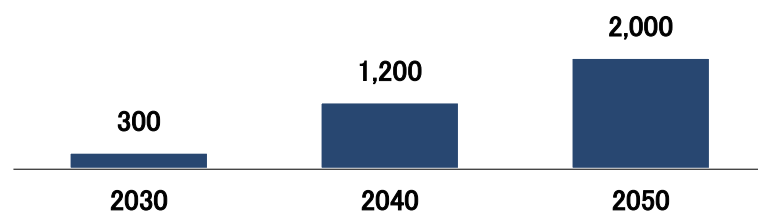
- 再稼働向けの部材更新の技術対応、引き合い増加を予想。
- 新型炉(SMR・革新炉)のパイロット設計段階から参画。
- 既存炉の経年劣化対策は、既存領域の深耕として、継続的に対応。

- 次世代エネルギーとして水素の国内導入が加速する中で、水素サプライチェーンの全フェーズにおいて設備投資需要が見込まれます。

## 水素市場の動向

水素は次世代エネルギーとして期待されており、官民一体となつての国内導入が加速している。

政府の国内水素等導入量目標推移 [万トン]



水素サプライチェーンの各フェーズにおいて、

- 【つくる】LH2製造拠点の拡大
  - LH2の製造拠点が拡大している。
- 【はこぶ・ためる】船舶によるLH2運搬・貯蔵事業の拡大
  - LH2運搬船量産に向けて協業体制が整えられており、LH2受入基地の建設も進められている。
- 【つかう】水素利活用事業の開発進展
  - 水素還元製鉄や水素混焼発電、LH2燃料船運航等の水素利活用事業において、実用化に向けた技術開発が進んでいる。

## 市場ニーズ・当社の強み

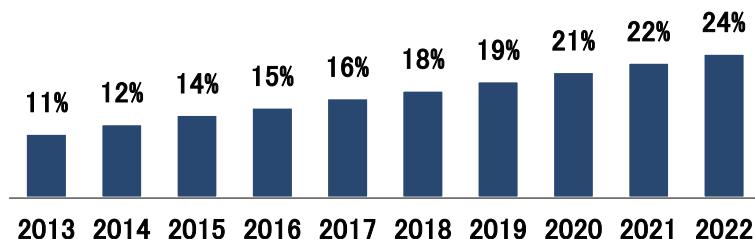
- 当社の強み
  - 代替困難な“極低温×伸縮”技術。  
世界初の液化水素運搬船「SUISO FRONTIER」に採用(2021年)。実証船への採用により高い技術力、信頼性を証明。
  - 二重管構造による断熱性・伸縮性の確保など、極低温領域に適した配管継手供給が可能。液化水素(-253℃)の領域で、金属材料・構造部材の伸縮をコントロールしつつ断熱性を確保。
- 市場ニーズと当社の対応力
  - サプライチェーン全体で需要が拡大。
  - 断熱性・伸縮性・極低温への対応など、水素設備に共通する要求に当社技術が適合。①輸送(液化水素運搬船)、②貯蔵(極低温タンク、京浜・関西地区プラント)、③利用(発電、製鉄プロセス) どの段階でも極低温配管の伸縮は不可避な需要。
- 具体的な動き
  - 次期水素運搬船プロジェクトにおいて継続受注見込み。
  - 京浜地区の貯蔵プラント、関西地区でも計画あり推進中。
  - 火力発電所、製鉄所で混焼燃料実証に当社製品が採用。

- 全国の上下水道の経年変化や、各種建造物(高層ビルやプラント)の建設・更新ラッシュに伴うインフラ更新需要が見込まれます。

## 水道市場の動向

- 水道管路の経年化率は、2022年時点では23.6%
  - 政府主導の「インフラ長寿命化計画」を背景に、全国規模で上下水道の更新活性化が見込まれる。

水道管路の経年化率推移 [%]



その他想定される用途先の動向として、

- プラント施設配管の老朽化が進行
  - 高度経済成長期に多く建設されたプラントにおいて、地中埋設型の配管を中心に交換需要増加が想定される。
- 耐震化や高層ビル数増加が進行
  - 既存建築物の耐震性向上が求められている。
  - 都市再開発により建築の高層化が進み、堅調に推移している。
- 災害発生時の給水設備需要が増加
  - 地震災害リスクの高まりを受け、浄水設備・システムの需要が増加している。

## 市場ニーズ・当社の強み

- 当社の強み
  - 市場の求める水道施設、水道管路の耐震化製品をラインナップ。
  - SDF工法という差別化された専用品を製造している。
    - ✓ 開削工事をせずに管路更新と耐震化を実現した工法。
    - ✓ 大都市部で拡大余地が大きい。
    - ✓ 競争企業が限定されている高成長ニッチ市場の必需部材メーカー。
- 市場ニーズと当社の対応力
  - 益々求められる耐震性・地震変位吸収性に対して耐久性の高い製品技術、温度変化や地盤変位に対応した製品技術を活かし、社会インフラを支える。
- 具体的な動き
  - 巨大な潜在需要の耐震化、老朽管更新は国策レベルで強化の方向性。
  - SDF工法は、開削工事が不要な老朽管更新工法であり、大都市圏を中心に今後も拡大を見込み、水道管路以外にも、販路拡大が期待。

## スプリンクラー市場

### 都市再開発、高層化、老朽化、そしてDX化 広がる消火設備市場の新規・更新需要



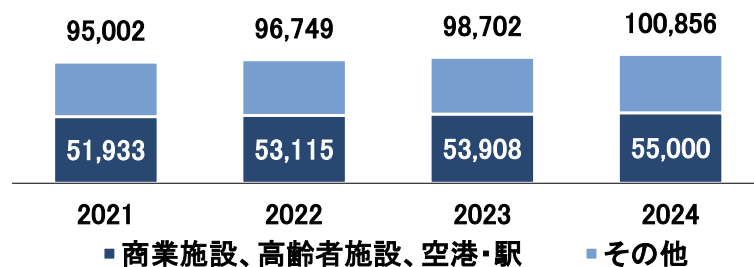
- 都市再開発、建物の高層化・老朽化が進む中で、スプリンクラーの新規／更新需要が見込まれます。加えて、データセンター建設が進む中でガス消火設備の新規需要も見込まれます。

#### スプリンクラー市場の動向

- スプリンクラー新規・更新需要の増加

- スプリンクラー設置が必要な高層化が進む再開発事業や大型商用施設などで、耐震製品に加え、人手不足への対策として、フレキシブル継手の採用が拡大。
- 高齢化に伴い、高齢者施設（消防法改正によりスプリンクラー設置が義務化済み）も増加している。
- その他、空港、駅施設やプラント等においても配管やスプリンクラーの老朽化が進んでおり、更新需要が増加している。

特定防火対象物のスプリンクラー設置数 [台]



- ガス消火設備新規需要の増加

- 近年DX化の加速やクラウドサービス、AIの普及を背景にデータセンター建設数が増加し、新規需要が増加している。
- 電子機器のあるデータセンターでは水の噴霧が難しいためガス消火設備が求められる。

#### 市場ニーズ

- 当社の強み

- 消火用フレキシブルホースは、業界最広クラスの製品ラインナップ。水系消火用、泡系消火用、ガス系消火用など顧客ニーズ対応に強み。
- 日本初のガス系消火用フレキシブルホース。柔軟性による作業効率向上の効果と、データセンターの建設増加により、今後の普及が見込まれる。

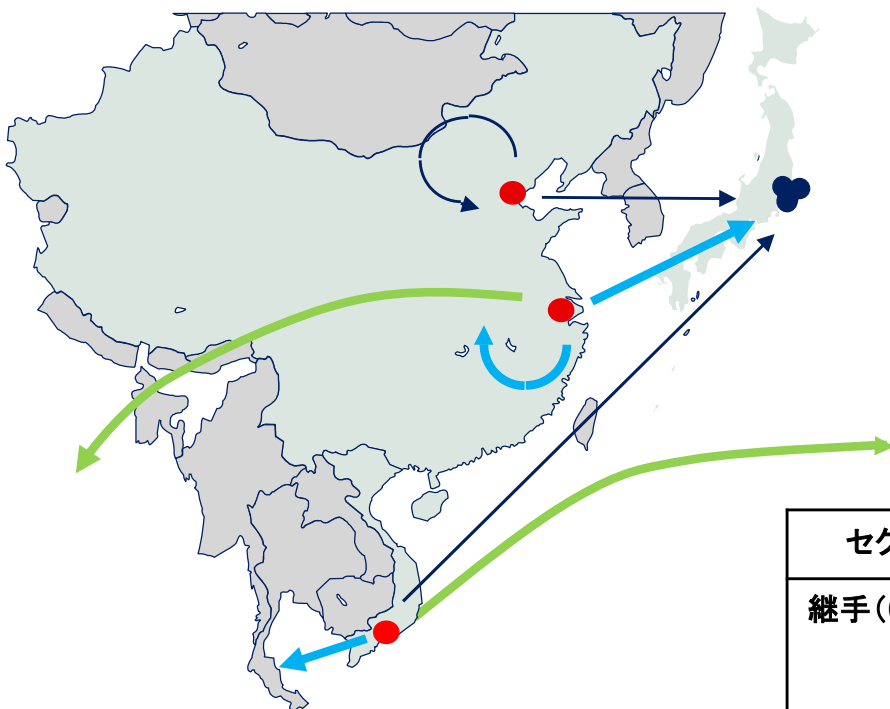
- 市場ニーズと当社の対応力

- 都市再開発・高層化でスプリンクラー需要拡大。また、データセンター建設増でガス系需要が急増。
- 今後、益々求められる耐震性・施工性に対応した製品製造技術。人手不足の深刻化で、施工性の高さが重要になっている。

- 具体的な動き

- 市場ニーズに対応した新たな製品開発の推進。
- 都市再開発・高層化、データセンター建設。更新需要、耐震改修向けの営業。

# グローバルに展開・成長するテクノフレックスグループ



海外子会社(人数)	主な海外出荷先
天津天富軟管工業有限公司(119)	中国(一般市場)
天孚真空機器軟管(上海)有限公司(34)	中国(半導体関連) インド・韓国 (水素エネルギー関連)
TF(VIETNAM)CO.,LTD.(160)	マレーシア・シンガポール (半導体関連) 米国(水素エネルギー関連)

セグメント(人数)※	本社所在地	社名		創業年
		社名		
継手(646)	東京都	株式会社テクノフレックス		1977
	中国(天津)	天津天富軟管工業有限公司		1988
	中国(上海)	天孚真空機器軟管(上海)有限公司		2003
	ベトナム	TF(VIETNAM)CO.,LTD.		1994
防災・工事(118)	千葉県	株式会社TFエンジニアリング		2014
	神奈川県	ニトックス株式会社		1975
	埼玉県	株式会社中野製作所		1972
自動車・ロボット(76)	神奈川県	株式会社チューブフォーミング		1960
介護(142)	千葉県	株式会社スペースケア		1995

※ 2025年期末時点の人数(臨時雇用者数を含み、全社共通(管理本部)の人数を除く)